

令和3年度第2回滋賀県総合教育会議の結果について

教育・文化スポーツ常任委員会資料5
令和3年(2021年)10月4日
教育委員会事務局教育総務課

日時：令和3年9月10日(金) 10:00~12:00

場所：県庁北新館5階5-B会議室(オンライン会議システムにより開催)

出席者：三日月知事、中條副知事、福永教育長

土井委員、岡崎委員、窪田委員、野村委員、石井委員

ゲスト：滋賀県立高等学校在り方検討委員会委員長(佛教大学副学長) 原 清治

(議題2) 県立虎姫高等学校 校長 梅本 剛雄

県立守山北高等学校 校長 松宮 恵

守山市 課長補佐 杉本 聡



議題1：新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた当面の学校の対応について

事務局から新型コロナウイルス感染症の状況と学校における対応状況について説明し、感染防止対策や学びの保障等の今後の対応方針について意見交換を行った。

出席者の主な意見

- ・修学旅行や体育祭等は延期、部活動は原則実施しないこととされ、子どもたちのつながりの場が失われることを心配する保護者の声がある。子どもたちが様々な経験を積み重ねる機会の確保が必要である。(教育委員)
- ・学校現場を支援する観点からも、校内清掃等の学校内での活動における具体的な感染対策について、県が周知徹底を図る必要がある。(教育委員)
- ・コロナ禍を契機にオンライン授業等のICTの活用を推進することで、教育の充実につながる。ピンチをチャンスに変える発想が重要。(教育委員)

議題2：これからの滋賀の県立高等学校の在り方について

事務局から滋賀県立高等学校在り方検討委員会の検討状況について説明の後、原委員長から委員会の答申素案に込めた思い等について発表された。その後、虎姫高校長と守山北高校長、守山市杉本課長補佐から、県立学校の魅力化に関する発表があり、これらを踏まえ、今後の県立学校の在り方に関する取組の方向性等について意見交換を行った。

(1) 地域連携に向けた取組の方向性について

- ・子どもたちの郷土愛を育成することが重要である。地域に支えてもらっているということを実感できる体験や、地域で成功された人と触れ合う機会を幅広く設けることで、自分の将来のイメージを具体化させていくことにつながるのではないかと。(教育委員)
- ・高校、大学の卒業後に地域に貢献を果たすかどうかは、地域の産業力や生活環境等の影響が大きい。教育行政としては、社会の変化に対応できる能力や資質を高める、より良い教育の提供が重要である。(教育委員)

(2) 各学校の特色化の方針について

- ・起業家マインドの醸成や国際感覚を持った人材の育成は重要である。オープンイノベーションの潮流に合わせて、開かれた取組を希求してほしい。(教育委員)
- ・高等学校の特色化は、偏差値による垂直的な序列化ではなく、水平的な多様化の観点が重要である。滋賀は北部と南部で異なる背景があり、その地域の特性や魅力を生かした探究活動を行うことが重要である。(ゲスト)
- ・各学校は生徒や地域の意見を十分に聞き、一般論ではなく、主体的に魅力化の方針を検討する必要がある。全県的な魅力化の方針がまとめられた後は、学校に裁量を認めることが重要であり、県からはリソース面で支援していくことが適当である。(教育委員)